



新しい知事は任期の4年だけでなく、50年後の未来を描くべきです。50年前は歴史編さん事業が道内各地で盛んに行われ、過去100年を振り返ると同時に、次の100年を見据えるような社会でした。人口減少が加速する今、知事も、議員も、われわれ道民も一緒に次の50年のビジョンを再び考える時なのです。

昨今の選挙は誰かに担がれた候補者が多い。しかし多くの人々の意見を集約しようとする、自分のビジョンを強く出せないという弊害も生まれます。もう一つの傾向は官僚出身者の多さ。彼らは国のビジョンに合わせて地方を運営するのが上手です。大きな失敗がなかった高橋道政はそのタイプでした。

どんなに優れた人でも、長期政権になると職員が機能しなくなる。国の統計不正問題が最近の例です。国政では、政権交代可能な二大政党制を構築すべ

北大大学院経済学研究院教授 橋本 努氏(51)

## 次の50年の展望示して

はしもと・つとむ 1967年東京生まれ。東大大学院で博士号取得。専門は経済思想、政治社会学。2017年から現代政治や社会意識を調査するシノドス国際社会動向研究所所長。

ば、政治を厳しくチェックする機能が働くでしょう。道政でも、知事の支持基盤が交代可能な場合、政治のチェック機能がうまく働きます。

新しい知事には、少子化対策やJRの鉄路存続問題、エネルギー政策など、50年後の世代に何を残せるかを語ってほしい。道民が自らを問い直すような雰囲気をつくってほしいです。

首長だけでなく、道議や市町村議の選挙も控えています。議員も知事と同じようにさまざまな有権者の声を拾い、世論を可視化することが必要です。最近増えている無党派層が組織化できないのは、そういった政治実践が欠けているからではないでしょうか。

道民も政治がどうあるべきか、という語りが無くなっています。統一地方選で候補者が語る言葉に耳を傾け、未来の北海道に何を残せるか、皆さんも考えてみましょう。

(聞き手・報道センター 小林

史明)